

# 夏こそ自然の力で生ゴミ減量

これから夏本番を迎え、日差しも強くなります。区内で、ごみ減量などの活動をしている「環境サークルみどり」の渡辺富子さんと、ご近所の阿部京子さんに、この時期にぴったりの生ごみ減量法を紹介していただきました。

## 分解と乾燥で野菜ごみ減量

野菜ごみなどに関しては、太陽の日差しで乾かしたり、土に埋めたりすることが減量につながります。夏は、埋めてから二十日間くらいでごみが分解され、さらさらの土になります。畑や花壇をお持ちの方はお試しください。ただし、ごみを埋めた場所には、分解された後も、しばらくの

間、作物や花などを植えられませんが、ごみ減量について、乾燥させてから埋めると、すぐに分解されます。また、多くの水分を含んでいるごみは、水切りの徹底により、かなり減量できます。畑や花壇がない場合でも、井やボウルに入れて、日の当たる場所で干すことなどにより、減量できます。



水を切ることが、ごみ減量とごみ焼却エネルギーの節約につながります

## 畑や花壇に埋める場合のコツ

- 1 ごみは新しいうちに埋める（腐敗したものを埋めないようにしましょう）
- 2 花壇や畑の隅に、穴を深め（できれば80センチ程度）に掘り、土とごみをしっかり混ぜて、表面に土をたっぷりかけて覆う（カラスやハエへの対策）
- 3 埋めることに向かないもの
  - ・トウモロコシの皮や木の枝は、分解されずに残る
  - ・果物の種が入っていると、芽が生えてくることもある

## 地域ぐるみでリサイクル

### 集団資源回収

市では、平成三年から、集団資源回収に取り組む団体に対して奨励金を交付し、活動を支援しています。最近ではこの制度も浸透し、市内各地区で資源回収が行われています。その中でも、栄西地区の栄北第三町内会では、奨励制度の始まる以前から資源回収に取り組んでおり、昭和五十六年に、毎月一回の資源回収日を設けることにしました。それ以来、担い手の世代交代をしながら、二十三年間にもわたり、続けられています。

「昔は、現在と比べると、環境保全に対する世間一般の意識は高くなかったでしょう。そんな中で、活動を続けていた先輩たちは、すごいと思

います」と話すのは、同町内会の会長の藤原一郎さん(72)。

資源回収の日程は、町内会の総会で決められ、回覧で町内に周知されます。資源回収の当日には、各戸の玄関の前などに、新聞、雑誌、ダンボール、空き瓶など、品目ごとに分類されて資源が並んでいます。そして、回収作業のために、町内会の人たちが、十数人も集まってきました。

藤原会長によると、各家庭の資源回収への意識の高まりから、新聞、雑誌などが、資源として回収されずにごみステーションに捨てられること



地域の人たちが共同作業をすることによって、リサイクル効果だけではなく、人と人のつながりも生まれています

が、以前に比べると、少なくなったそうです。

特に、ダンボールについては、かつては、ほとんどがごみステーションに捨てられていたのですが、最近は、資源回収に出されるのが、増えてきました。また、資源を出さなかった家庭からも、年々協力を得られるようになり、なりました。

回収作業に携わった人たちは「月に一回の資源回収を通じて、仲間と会って、共に汗を流す。実は、これが楽しいんです」と笑顔を見せてくれました。集団資源回収が、環境負荷の低減などについてはもちろんのこと、地域のふれあいづくりにも結び付いています。

◆ ◆ ◆ 私たちの生活とは、切り離すことのできないごみ問題。その解決に向けて、私たち一人ひとりが、日常生活でできることを積み重ねていきたいと思います。



会長の藤原さん。作業中も、町内に積極的に声をかけます